



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

プレスリリース

2011年12月14日 パリ

本書は、英語による「Crédit Agricole 欧州債務危機に適応」の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

クレディ・アグリコル：欧州債務危機に適応

リテール・バンキング及び関連事業部門においてマーケット・リーダーであることを最大限に活用
2013年には普通株式ティア1比率10%を達成することにより財務の健全性を強化
実体経済にサービスを提供する当社の強みに集中

* * *

*

9月28日に発表した資金調達額削減計画(2012年末までに500億ユーロ減)は、2011年10月末時点で既に90億ユーロを削減。

ディストリビューションと主要顧客に対するサービスの提供に集中する法人営業及び投資銀行業務のニュー・モデルを構築。

クレディ・アグリコルS.A.の連結決算における25億ユーロの例外的減損はバーゼルⅢ普通株式ティア1比率に全く影響を与えていません。極めて厳しいマーケット状況の中で、連結決算でクレディ・アグリコルS.A.の損失計上にもかかわらず、クレディ・アグリコル・グループは、2011年度は利益を計上する予定です。

2013年度末のクレディ・アグリコル・グループのバーゼルⅢ普通株式ティア1レシオは10%を達成する予定です。

フランス経済に対する資金提供において、クレディ・アグリコルがリーダー的役割を担っていることを確認しました。

過去前例のない一連の金融制度改革にみられるとおり激動の経済及び金融環境下において、またバーゼルⅢの導入ならびにより厳格な当局の監督規制が課される中で、クレディ・アグリコルはこの困難な状況に的確に対応しています。

2011年9月28日、クレディ・アグリコルS.A.の取締役会は、新たな環境に適応していくための事業適応計画を発表しました。この計画は主に、資本の活用における構造的な削減、資金調達源の多様化、当グループの自己資本比率の向上、事業ポートフォリオの効率化がもたらされています。

異なる事業部門長からなる取締役会は、この事業適応計画の順調な継続と重要顧客に対するサービスの提供をするための法人営業及び投資銀行業務のニュー・モデルを実現可能とする対応策を承認しました。更に、同取締役会はその計画に対する様々な予想結果について、社会的、財務的、会計的な視点から綿密に検討しました。当計画は、影響を受ける異なる国々の社会的手続きを最大限に遵守しています。

欧州危機に適確に対応するクレディ・アグリコル

クレディ・アグリコル事業適応計画の二つの鍵

1. 資金調達必要額の構造的削減

準備金は2011年9月30日に1,030億ユーロの最低水準に達しましたが、現在積み増しが実行されており2011年11月28日現在では1,180億ユーロとなっています。

尚、9月28日にクレディ・アグリコルは、2011年の220億ユーロに対して、2012年の120億ユーロの中・長期の調達計画を発表しました。

2. 重要顧客に対するサービス提供とディストリビューションに集中した法人営業及び投資銀行業務のニュー・モデル

クレディ・アグリコルのCIBのニュー・モデルは、資金調達必要額を150億から180億ユーロ削減するという目標に沿ったものです。そのうち2011年末までに90億ユーロを削減します。また削減分の75%は米ドルです。このニュー・モデルは、バランスシートの資産規模を圧縮することを狙った戦略に基づいています。

- 「証券化によるリスク資産の売却」を前提としたモデル (originate to distribute) への対応: オリジネーションとストラクチャード・ファイナンス、債券によるソリューションの増加、シンジケーション及び証券化の発展、シンジケーションに参加可能な投資家との初期段階でのパートナーシップ関係の構築。
- 投資銀行及びブローカレッジにおけるアドバイザリー業務及び執行(エグゼキューション)能力の強化。

この戦略は、銀行の仲介機能の低下(ディスインターミディエーション)の新たな枠組みに合わせて、当グループの重要顧客の開拓に対応できるよう立案されています。

適応計画には3つの対応策が明確にされました:一つ目は重要顧客に焦点を当てること。二つ目は、21カ国のオペレーションを閉鎖し、地理的観点からの事業拠点を見直すこと(CACIBは32カ国に継続して拠点を置く。それら32カ国は世界GDPの84%を占める。)三つ目は、特定の事業(株式デリバティブとコモディティ・ビジネス)からの撤退です。

CACIB は、バランスシートの資産を圧縮し、バランスシートの資金コストに適応した資産削減を進め、この厳しい環境の中で収益を生み出すためのビジネス・モデルを採用します。

- バランスシートの資産圧縮：
 - 2012年末までに、株式デリバティブとファイナンス事業を中心に約180億ユーロの資本効率を向上。今
 - 後2013年1月までにリスク加重資産の300億ユーロ以上を圧縮。この資産圧縮は、オペレーションの合理化と、ローン資産の売却、ポートフォリオの処分に伴うものです。
- バランスシート上のアセット・コストと経費のコントロールを徹底：コスト削減対象項目の調整（13%の人員削減）と更に他のコストの10%削減計画（サポート機能、購入の削減）。
- 厳しい環境で収益を生み出すためのビジネス・モデルの採用：ターゲット・クライアントのサポートと、新規資金調達の手組みにおける利ざや確保の対応、収益源の多様化を目指す中で手数料収入の比重を拡大。

● 専門金融サービス部門における対応策：消費者金融、リーシング、ファクタリング

クレディ・アグリコル消費者金融(CACF)では、およそ80億ユーロの資本効率の向上を実現するために4つの戦略が実行されました。同時にこの戦略はCACFが消費者金融市場において極めて重要な地位にあることを明らかにしました。

- そのうち最初の3つの戦略は、およそ80億ユーロの資産の圧縮に関連しています：同様にオペレーションの削減、受取債権やオペレーションの売却に伴うものです。
- CACFは、40億ユーロから50億ユーロのリファイナンス・ソースの分散化も行う予定です（これは当計画には含まれていません）。
- 長期的には、銀行業務純利益に与える1年分の影響額の40%は、このコスト削減によりカバーされます（ターゲット項目による調整）。

クレディ・アグリコル・リーシング & ファクタリング(CAL&F) で採用された対応策は、2012年末には、2つの方法によってクライアントの資産を約10億ユーロ圧縮することを目標にしています。2つの方法とは、オペレーションとリーシングのポートフォリオの売却及びオリジネーションの削減です。

● リテール・バンキング部門における対応策

クレディ・アグリコルは、資金調達必要額を230億ユーロ削減するという目標を確認しました。

フランス国内のリテール・バンキング部門では、クレディ・アグリコルはバランスの取れた展開を選択してきました。

- フランスの定期預金の金利が高いことを背景に、顧客による預金金額の拡大を強化する（クライアントの満足度を最優先させ、新規預金市場のシェアを拡大し、富裕層向け事業部門の改善に向け努力を行う）。
- 貸出しの着実な進展。顧客の借入需要が減少する環境下で、流動性コストを考慮した金利を提供。

国際リテール・バンキング部門では、地域のマーケット状況に適応した事業戦略がとられています。

- エンポリキ: 預金残高を大幅に増額させる努力を目指し、預金のマーケット・シェアを引き続き拡大していく。元本の均等返済によるローン残高自然減から資産の圧縮を目指す。
- カリパルマ: 顧客ビジネスに再び焦点を当て、貸出残高の伸びをコントロールすることで資金流入額を伸ばす。

● 社員雇用に与える影響を限定的なものにする努力を実行

当事業適応計画の対応策により、フランス国内外において、特にCIB及び消費者金融の2部門において、雇用が削減されます。これは、社員の代表組織による承認を受けなければなりません。CIB部門では、フランスで550名、他の国々では1,200名のポジションに影響を受けることになります。また消費者金融部門では、フランス国内で300名の、他の国々で300名のポジションが影響を受けることになります。

優先する選択肢としては、スタッフの社内配置転換、人材の流動化がありますが、一方では早期希望退職を奨励することが望ましいでしょう。2012年の早い段階で、社員の代表者達に新契約案が提示される予定です。各代表者との協議の上で、当社社員の配置転換が最大限に活用されるよう、新規事業部門や各地域拠点への人事異動を奨励するフルサポートのシステムが導入されます。

クレディ・アグリコル・グループは、2012年中も引き続き新規スタッフを積極的に採用する予定です。フランス国内では、特にリテール・バンキング部門で3,500名以上の新規採用をおこない、更に業務ベースの契約社員を3,000名採用する予定です。

● 財務及び会計上の影響

2011年第4四半期:

- 事業適応計画は、純利益(グループ帰属分) に対しおよそ5億ユーロの影響を与えます。それには、全ての雇用調整によるコスト軽減策のための引当金、ポートフォリオ売却にかかるリスク関連費用の引当金と銀行業務純利益に与える影響額が含まれます。事業適応計画の範囲では、出資価額の減損による影響額は13億ユーロになります。予想される2011年並びにそれ以降の収益減によって、CIBにおける出資価額減損による影響額が10億5,300万ユーロ、リーシングとファクタリング部門では2億4,700万ユーロとなります。これはパーゼルIIIの自己資本比率には影響を与えません。
- その他の一時的な影響は、現金には影響はなく、市場の著しい悪化に伴いパーゼルIIIの自己資本比率に与える影響額が、およそ12億3,400万ユーロとなります。持分法による特定の少数株主持分価額の減損は、全体で9億8,100万ユーロであり(その内、Bankinterが6億1,700万ユーロ、BESが3億6,400万ユーロ)、特定の海外子会社の出資価額減損費用が全体で2億5,300万ユーロ(イタリアが1億9,100万ユーロ、ウクライナが6,200万ユーロ)となります。

2011年の業績予想

これまでの要因や、2011年第4四半期のマーケットの環境悪化がもたらすクレディ・アグリコルS.A.の連結決算での損失にもかかわらず、現在のマーケット状況では、クレディ・アグリコル・グループは黒字決算を発表することが予測されています。取締役会は、株主総会では配当を支払わないことを提案する予定です。クレディ・アグリコル・グループは2011年9ヶ月間累計で33億ユーロ以上の純利益(グループ帰属分)を生み出してきています。

事業適応計画による2012年度の財務及び会計上の影響

- 2012年度では、当適応計画は純利益(グループ帰属分)に-4億7,000万ユーロの影響を与えます(ポートフォリオの売却が銀行業務純利益とリスク関連費用に与える影響額です)。
- 投資銀行部門と専門金融サービス部門において、この適応計画導入が資本に与える影響額は、純額でおよそ-230億ユーロになります(2011年6月に対する2012年12月の予想影響額です)。
- 1年間全体で、銀行業務純利益に与える影響(グループ帰属分)は、-2億5,000万ユーロと推定されます。銀行業務経常利益はおよそ7億から7億5,000万ユーロの減少となり、その内の50%はコスト削減によってカバーされます。
- 長期的には、リスク加重資産に与える影響額は全体で-350億ユーロになります(適応計画及びポートフォリオ売却)。

クレディ・アグリコルは、「グループ戦略計画」と「コミットメント2014計画」の重要な戦略上の諸決定を、改めて確認いたします。

- 顧客重視型のユニバーサル銀行を目指す。
- CIB事業部門と金融サービス部門の段階的重点強化。

但し、本事業適応計画や、経済や金融における先行きの不透明さにより、「コミットメント2014」中期計画の実行や達成に変更がもたらされており、現時点ではその目標を確認することは困難な状態です。

● 自己資本比率:クレディ・アグリコル・グループは2013年に必要条件を満たします。

クレディ・アグリコルは、監督省庁及び格付会社による査定を受け、自己資本比率がクレディ・アグリコル・グループの水準であることを重視しています。

欧州銀行監督機構(EBA)の実施したストレス・テストの結果が、2011年12月8日に発表されましたが、それによるとクレディ・アグリコル・グループは2012年6月時点で資本増強は必要とされていません。

クレディ・アグリコル・グループは、2013年末時点で普通株式ティア1比率(GET1)が10%となる見込みです。

- クレディ・アグリコル・グループS.A. のリスク加重資産を600億ユーロ削減します。
- クレディ・アグリコル・グループの業績結果を維持する方針です。
- クレディ・アグリコルS.A.の株主に対し、2012年度より配当を株式によって支払うというオプション

ョンを提示しています。

- 保険事業部門を金融コングロマリットの一部門とし、クレディ・アグリコル・アシュアランスのレバレッジ比率を最適化します。
- 地域銀行の資本を株式発行により強化します。

2011年9月末にEBAによるストレス・テストで9.23%を達成後、2013年末までに10%の目標値を達成するために以下のことを考慮に入れます。

- 保険事業を除くバーゼルIIIへの影響:- 0.8 %
- 金融コングロマリットとしての保険事業:-0.9%
- 余剰金と増資:+1.6%
- 改善計画:+0.6%
- 方法論的利益:+0.6%
- 事業開発:-0.3%

クレディ・アグリコルS.A.は業務適応計画の実行に断固として取り組んでいます。

当グループは、相互主義的な組織構造に基づく内部の柔軟性と連帯を最大限に生かす能力があることを示しています。

● **クレディ・アグリコル:クライアントと経済にサービスを提供するため総力を結集します。**

「グループ戦略計画」発表の1年後、顧客重視型ユニバーサル銀行はクレディ・アグリコル・グループの核心となる事業であることが改めて明確になりました。顧客重視型ユニバーサル銀行は、リテール・バンキングと、資産運用ならびに保険事業のような関連事業部門を兼ね備えています。リテール・バンキング及び関連事業部門は、当グループの収益の大きな部分を占めています(銀行業務純利益の約80%に相当)。

クレディ・アグリコルは、フランス経済の主要な金融サービス会社としての役割を果たしており、9月末現在のローン残高は前年同期比6.4%増の4,770億ユーロとなりました。

フランス国内の人々の様々な計画を支えるために、クレディ・アグリコルは日々総力を結集しています。

- 個人顧客に対し1日2,500件の割合で住宅ローンを承認。
- スモール・ビジネス及び農業関連のビジネスに対し1日1,100件の割合でローン申請に対応。
- 1日3,200件の割合で自動車ローン申請に対応(自動車、オートバイ、RV車)。
- 1日4,800件の割合で家庭用機器のローン申請に対応。
- 1日1,800件の割合で新規自動車保険申請に対応。
- 1日440件の割合で個人用新規健康保険の申請に対応。

クレディ・アグリコル・グループはフランス国内で10万人を超える社員を有し、日々お客様に各種のサービスを提供しています。

Disclaimer:

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset impairment.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

The figures shown are not audited.

This document contains information based on work and reviews currently in progress. This information must be used in accordance with the required legal procedures, particularly with regard to employee representative bodies.

Press relations

Crédit Agricole S.A.

Anne-Sophie Gentil ☎ +33 (0)1 43 23 37 51

Stéphanie Ozenne ☎ +33 (0)1 43 23 59 44

M: Communication

Louise Tingström ☎ +44 (0) 789 906 6995

Charlotte Mc Mullen ☎ + 44 (0) 792 188 1800